

## 職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
山形医療技術 専門学校	平成7年1月4日	梶原賢	〒990-2352 山形県山形市大字前明石字水下 367番地 (電話) 023-645-1123			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人諏訪学園	昭和55年12月1日	澤村禎三	〒990-0033 山形県山形市諏訪町1-1-13 (電話) 023-642-1249			
目 的	学校教育法に基づき、理学療法士及び作業療法士を志望する者に対し、専門の教育を行い、有能な人材を育成することを目的とする。(学則第1条)					
分 野	課 程 名	学 科 名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
医 療	専門課程	作業療法学科	4年(昼)	3645時間 107単位	—	平成17年 文部科学大臣 告示第170号
教育課程		講義	演習	実験	実習	実技
		66単位	11単位	—	28単位	2単位
生徒総定員		生徒実員	専任教員数		兼任教員数	総教員数
160人		162人	6人		20人	26人
学期制度	■前期：4月1日から9月30日まで ■後期：10月1日から3月31日まで			成績評価	■成績表 (有)・無 ■成績評価の基準・方法について 定期試験の結果及び平常成績を 総合判定する。 優・・・80点以上 良・・・70点～80点 可・・・60点～70点 不可・・・60点未満	
長期休み	■学年始め：4月1日から4月7日まで ■夏 季：7月25日から8月31日まで ■期 末：9月26日から9月30日まで ■冬 季：12月25日から1月7日まで ■学 年 末：3月25日から3月31日まで			卒業・進級条件	卒業：全科目単位取得していること。 卒業試験に合格していること。 進級：全科目単位取得。各科目の 総合判定でで以上を合格とする。	
生徒指導	■クラス担任制 有 ■長期欠席者への指導等の対応 本人、保護者との面談等を行う。 教員間の連携を図り対応する。			課外活動	■課外活動の種類 自治会活動(スポーツ大会、 花笠まつり参加等) ボランティア活動 ■サークル活動 無	

主な就職先	<p>■主な就職先、業界 病院、施設、介護老人保健施設等</p> <p>■就職率 100% 卒業者に占める就職者の割合 100% 平成28年4月1日現在 「就職率」は、就職希望者に占める就職者の割合とする。 「就職率」における「就職希望者」は「進学」「留年」「資格取得」などの者を含まない。</p>	主な資格・検定	作業療法士
中途退学の現状	<p>■中途退学者 7名 ■中退率4.2% 平成29年4月1日在学者 162名（平成29年4月入学者を含む） 平成28年3月31日在学者 156名（平成29年3月卒業生を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 進路変更、学業不振等</p> <p>■中退防止のための取組 担任による個人面談等を定期的に行う。保護者との連絡を密にする。 教員間の連携をとり、成績不振者の個人指導を行う。</p>		
ホームページ	URL: <a href="http://www.ymisn.ac.jp">http://www.ymisn.ac.jp</a>		

## 1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

企業等で必要とされる知識、技術、姿勢を十分に把握し、企業等の要請を受けるべく実践的かつ専門的な教育になるようにする。

特に実践的教育の場である実習先との事前、実習中、事後の指導者会議、ヒアリングアンケート等を実施し、教育課程編成委員会において活用するよう取り組む。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成29年4月1日現在

名 前	所 属
梶原賢	校長
杉原敏道	教育部長
古内慶弘	教務課長
長沼誠	理学療法学科長
鈴木竜平	作業療法学科長
武田貴好	教育部主任
(外部委員)	
菊地和博	東北文教大学短期大学部 特任教授
渡辺貴之	笠原整形外科 理学療法士
西堀陽輔	山形徳洲会病院 作業療法士
奥山哲	Body care salon mizizi 代表 理学療法士

(開催日時)

第1回 平成29年5月17日13:00~15:00

第2回 平成29年11月上旬開催予定

## 2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

厚労省の定める臨床実習施設の要件にあった病院・施設で実習を行う（承認を受けた病院・施設）。各学年の学習進捗状況に合わせ見学実習、評価実習、治療実習を行う。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床見学実習	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習を通じて、学生自身で作業療法士のイメージを構築する</li> <li>2. 病院・施設等における作業療法士の役割と治療者としての資質について理解する</li> <li>3. 学生自身が得た作業療法士のイメージを表現（レポート）してまとめる</li> </ol> 以上を目的として、県内の病院・福祉施設において担当作業療法士の指導の下、実習を行う。	病院、クリニック、介護老人保健施設等  連携企業総数 33 施設
評価実習（検査・測定）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習を通じて、対象者に対して検査・測定を正確に実施する</li> </ol> 以上を目的として、県内の病院・福祉施設において担当作業療法士の指導の下、実習を行う。	病院、クリニック、介護老人保健施設等  連携企業総数 31 施設
評価実習	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習を通じて、学生が対象者の全体像を把握する</li> <li>2. 対象者の問題点とその優先順位を考慮して作業療法目標を設定する</li> <li>3. 実習指導者の下で治療計画を経験し、治療構造や治療手段への理解を深める</li> </ol> 以上を目的として、県内の病院・福祉施設において担当作業療法士の指導の下、実習を行う。	病院、クリニック、介護老人保健施設等  連携企業総数 49 施設
治療実習Ⅰ・Ⅱ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 最終実習として、作業療法士としての資質を再確認する</li> <li>2. 対象者の生活を基本とした中での作業療法の流れに沿った一連の過程を理解する</li> <li>3. 再評価をすることで実施した作業療法プログラムの効果判定と修正を行う</li> </ol> 以上を目的として、県内の病院・福祉施設において担当作業療法士の指導の下、実習を行う。	病院、クリニック、介護老人保健施設等  連携企業総数 65 施設。

## 3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

教員の資質向上を図るため、学会、研修会等に参加し見識を深め、担当科目の専門性をより深める。また、病院、施設等に赴き臨床現場の現状を把握するとともに、実技に関する技術の向上を図る。

#### 4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成29年4月1日現在

名 前	所 属
梶原賢	校長
杉原敏道	教育部長
磯部佳宏	総務部長
古内慶弘	教務課長
長沼誠	理学療法学科長
鈴木竜平	作業療法学科長
武田貴好	教育部主任
(外部委員)	
菊地和博	東北文教大学短期大学部 特任教授
早坂奈緒子	篠田総合病院 理学療法士
沼沢和宏	至誠堂総合病院 作業療法士
飯塚力	サンワ機器 代表取締役

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.ymisn.ac.jp>

#### 5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL <http://www.ymisn.ac.jp>

授業科目等の概要

分類			授業科目	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			社会学	保健・医療・福祉分野の社会問題を通して、社会的なものごとの捉え方を理解する。それをを用いて、現実の問題を自ら考察できるようにする。	1 前期	30	2	○		
○			心理学	保健・医療・福祉の分野で患者や障害者と関わることを踏まえつつ、人間の心理を理解する。	1 前期	30	2	○		
○			情報処理学	パソコン理論、ワード・エクセル・パワーポイントの活用法をマスターして、情報処理能力を高め、理解を深める。	1 通期	60	2	○		
○			文章構成法	レポート作成や論文作成の際に、適切な日本語での表現ができるように理解を深める。	1 前期	30	2	○		
○			保健体育	健康・安全や運動についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てる。健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。集団活動を通し、お互いを尊重し、協調・協力し合う態度を養う。	1 通期	60	2	△		○
○			総合英語Ⅰ	基本構文を理解し、文法に対する総理解を深める。	1 前期	30	2	○		

○			総合英語Ⅱ	Reading を通して考えながら文を読み、訳をつけるだけでなく「思考する」力を養う。	1 後期	30	2	○		
○			運動機能解剖学	人体解剖学の中の「運動器」を中心に習得する。骨・関節・筋の基本的構造（形態）および部位ごとの特徴について学ぶ。また、形態から関節運動や動作を想像し、運動機能との関連を理解する。	1 通期	60	2	○		
○			神経解剖学	中枢神経系では、脳・脊髄の機能・構造の発達も踏まえ学習する。人体の構造をより深く理解する。	1 後期	30	1	○		
○			内臓解剖学	内臓解剖に関する基礎的知識を身につけ、他の分野とも関連づけて学ぶことで理解を深める。	1 前期	30	1	○		
○			体表解剖学演習	解剖学の知識を確認しながら骨・筋・神経・靭帯・腱・脈管などを触診できるよう、表面解剖学実習を行い、理解を深める。	1 後期	45	1		○	
○			解剖学見学実習	学内で履修したヒトの構造を実際に確認し、抽象的イメージを具体的イメージに変換する。	1 後期	45	1		○	○
○			動物生理学	生理学は生命現象の機序を研究する自然科学である。本講義を通して、特に、動物機能（神経、筋、感覚等）の働きについて理解する。	1 通期	60	2	○		
○			植物生理学	生理学は生命現象の機序を研究する自然科学である。本講義を通して、生理学の中でも特に植物機能（血液、呼吸、循環等）の働きについて理解する。	1 後期	30	1	○		

○			生理学実習	中枢神経系の階層性について理解する。呼吸循環の機能について理解する。	1 後期	45	1		○	
○			運動学Ⅰ	健康な人体の基礎的な運動の特徴（四肢・歩行）について理解する。	1 後期	60	2		○	
○			運動学Ⅱ	健康な人体の基礎的な運動の特徴（体幹・てこ・運動処方）について理解する。	1 後期	30	1		○	
○			運動学Ⅲ	実習を通してながら体験的に人体の正常な姿勢、運動、動作の解析方法を学び理解を深める。	2 前期	30	1		○	
○			人間発達学	人間の各段階における発達課題を理解する。また、発達課題の達成度をはかる教育を習得し、リハビリテーションの評価・治療に応用できるようにする。	2 前期	30	1		○	
○			病理学	病気の成り立ち・仕組みを理解し、併せて症状、経過、転帰についてについて理解する。	2 前期	30	1		○	
○			臨床心理学	患者と接する時に身につけるべき態度や傾聴など患者に対応する時の具体的な技法を修得する。	1 後期	30	1		○	
○			整形外科学	整形外科疾患の特徴、治療、対応等について理解する。	2 通期	60	2		○	
○			内科学	内科疾患の特徴、治療、対応等について理解する。	2 通期	60	2		○	
○			神経内科学	神経内科諸疾患の特徴、治療、対応等について理解する。	2 通期	60	2		○	

○			精神医学	精神医学の歴史、様々な精神疾患の特徴、治療、対応等について理解する。	2 前期	30	1	○		
○			小児科学	発育期の小児の疾病・障害を理解する。	2 前期	30	1	○		
○			老年医学	老化、老年期疾患の病態、検査、治療が説明できるように理解を深める。	2 前期	30	1	○		
○			一般臨床医学	医療従事者としての一般臨床医学の基礎的な常識を理解する。	2 前期	30	1	○		
○			リハビリテーション概論	作業療法にかかわるリハビリテーションの概論を理解する。	1 前期	30	1	○		
○			リハビリテーション医学	リハビリテーションの対象となる主な疾患の特徴とその障害について理解する。	2 前期	30	1	○		
○			作業療法概論	作業療法という専門職への理解を深め、その理論的背景や歴史、およびどのような対象者にどのようなことを行うかについて理解する。	1 前期	30	1	○		
○			基礎作業学演習	作業療法で用いられる「作業活動」の基本を実習することで、準備工程・製作技法について学び、治療手段の一つとしての理解を深める。各作業における道具と機器の取り扱い・管理・安全策を理解する。	1 通期	90	2	○		



○			作業分析学演習	作業療法の治療媒体としての「作業活動」について理解を深め、臨床場面で用いられる各種作業活動を実施するための基礎的な技術を獲得する。	3 通期	45	1		○	
○			作業療法研究法Ⅰ	これまで学んできた技術や知識を論文にする（研究計画を立案し、実施する）という課題を通して、卒後に向けての研究に対する姿勢やその方法を学び理解を深める。	3 後期	30	1		○	
○			作業療法研究法Ⅱ	これまで学んできた技術や知識を論文にするという課題（研究結果で得られたデータを基に論文を作成する）を通して、卒後に向けての研究に対する姿勢やその方法を学び理解を深める。	4 前期	30	1		○	
○			身体障害作業療法評価学	作業療法の対象となる身体障害者に対して適切な評価法を選択し、実施する事ができるように様々な検査・測定方法の目的、手順、施行上の基礎知識、留意点を理解する。	2 前期	60	2		○	
○			精神障害作業療法評価学	精神障害作業療法の基礎になる諸理論の概略を理解することができる。個人及び集団作業療法の治療的要素を理解する。	2 前期	30	1		○	
○			発達障害作業療法評価学	障害児の治療・訓練を行うにあたって、基礎知識となる定型発達について、神経生理学的な観点から学習する。この科目では、主に粗大運動の発達、反射・反応の統合と成熟について理解を深める。	2 前期	30	1		○	

○			身体障害作業療法評価学演習	作業療法の対象となる身体障害・高次脳機能障害に対して適切な評価法を選択し、実施する事ができるように様々な検査・測定方法の目的、手順、施行上の基礎知識、留意点を理解する。	2 後期	45	1		○	
○			精神障害作業療法評価学演習	観察記録の記録法・記録を基にして、評価項目を検討し評価を導き出すことを学ぶ。精神障害者が利用できる施設の名称ならびに特徴、法制度を理解する。	2 後期	45	1		○	
○			発達障害作業療法評価学演習	粗大運動以外の広範な領域の発達について学習する。また、評価（情報収集、両親・家族面接、評価の選択）発達評価、評価表についても学習し、発達評価の方法の基礎を理解する。	2 後期	45	1		○	
○			身体障害作業治療学Ⅰ	身体障害分野のリハビリテーションにおける作業療法士の役割と作業療法の治療基礎・原理を学ぶ。また基本的知識を踏まえて身体的な障害を持つ対象者に対して、作業療法士の必須知識・技術を理解した上で、作業療法の立場から、どのように問題解決を図っていくかを理解する。	2 後期	30	1		○	
○			身体障害作業治療学Ⅱ	疾患によりひき起こされる身体障害に対して適切な治療・介入・指導が遂行できるよう、その疾患の概要と障害構造、治療・介入について理解する。主に脳卒中、頸髄損傷について理解を深める。	3 前期	60	2		○	

○			身体障害作業治療学Ⅱ	疾患によりひき起こされる身体障害に対して適切な治療・介入・指導が遂行できるよう、主に整形外科疾患についての概要と障害構造、治療・介入について理解する。	3 前期	60	2	○		
○			精神障害作業治療学Ⅰ	精神障害作業療法の基礎となる病理の復習と、そこから派生する障害特性について理解を深める。	3 前期	60	2	○		
○			精神障害作業治療学Ⅱ	精神障害作業療法の基礎となる総論について学ぶ。作業療法のおおまかな全体像及び患者にとってどの治療形態が適切か理解する。	3 前期	30	1	○		
○			発達障害作業治療学Ⅰ	臨床で使うことが多い発達検査を履修する。また、臨床医学で学んだ疾患（肢体不自由）の知識を確認しながら、発達障害に対する作業療法の理論、評価、治療、および基礎的な治療手技について理解を深める。	3 前期	60	2	○		
○			発達障害作業治療学Ⅱ	摂食機能の評価・治療の基本を学ぶ。また、定型発達児の発達について理解を深める。	3 前期	30	1	○		
○			身体障害作業治療学演習	各疾患によりひき起こされる内部障害・高次脳機能障害に対して適切な治療・介入・指導が遂行できるよう、その疾患の概要と障害構造、治療・介入について理解する。	3 後期	45	1		○	

○			精神障害作業治療学演習	障害特性に基づいた評価と治療計画を立て、紙上模擬症例を活用し、臨床に出来るだけ即した治療計画を立てられるように理解を深める。	3 後期	45	1	○		
○			発達障害作業治療学演習	発達障害に対する作業療法の疾患論（知的障害児）について履修する。臨床医学の知識を再確認しながら発達障害に対する作業療法の理論及び評価、治療、基礎的な治療手技について理解を深める。	3 後期	45	1	○		
○			老年期作業治療学	社会的背景における高齢者問題について正しく理解する。さらに介護保険制度の仕組みや老年期障害の作業療法アプローチについて学習する。またケーススタディを通して、作業療法の実際について時期別、施設種別での作業療法の違いについて理解を深める。	3 前期	60	2	○		
○			義肢装具学	切断の病態およびリハビリテーションについて理解し、適切な評価、治療が遂行することができるように学ぶ。各種切断と義手及び装具、適切なチェックアウトについての知識と理解を深める。	3 前期	30	1	○		

○			日常生活技術学Ⅰ	対象者の日常生活活動の問題点に対するアプローチの考え方、方法について体系的に学び理解を深める。	2 後期	60	2	○		
○			日常生活技術学Ⅱ	対象者の日常生活活動の問題点に対するアプローチの考え方、方法について理解する。対象者の支援の基礎となる動作分析について理解を深める。	3 前期	30	1	○		
○			地域作業療法学Ⅰ	障害者の自立生活、および社会保障と社会資源、ケアマネジメントについて正しく理解し、在宅障害者に対するケアマネジメント、および作業療法の指導・援助・技術を修得し理解する。	2 後期	30	1	○		

○			地域作業療法学Ⅱ	医療従事者として、公衆衛生活動、健康づくり活動の方法論を理解する。	3 前期	30	1	○		
○			職業余暇活動技術学	人が生活していく中で職業とは何かを学び、現在の障害者の就労の問題、状況について学び、作業療法の立場からの支援について理解を深める。	3 前期	30	1	○		
○			生活機器・環境学	生活機器・環境学では、身体障害者に対するアプローチの一つの手段である機器を中心とした環境設定によるアプローチについて理解を深める。	2 後期	30	1	○		
○			臨床見学実習	身体障害者・精神障害者との関わりを持つことにより、これから学ぶ対象者の障害像を大まかに捉える。実習を通じて、学生自身が作業療法のイメージを構築する。職業人、医療人としての望ましい態度や人間関係のとり方を身につける。	1 前期	45	1		○	○
○			評価実習(検査・測定)	各実習施設での実習を通じて、作業療法評価(検査・測定)を対象者に適切に行うことができる。評価の重要性を学び、社会人としての責任、自主性を学ぶ。	2 後期	45	1		○	○
○			評価実習	対象者の生活を基本とした中での、作業療法の流れに沿った一連の過程を理解する。評価から問題点を焦点化し、治療プログラムを立案する。	3 後期	315	7		○	○

○			治療実習Ⅰ	対象者の生活を基本とした中での、作業療法の流れに沿った一連の過程を理解する。再評価をすることで、実施した作業療法プログラムの効果判定と修正をする。	4 前期	405	9		○	○
○			治療実習Ⅱ	対象者の生活を基本とした中での、作業療法の流れに沿った一連の過程を理解する。再評価をすることで、実施した作業療法プログラムの効果判定と修正をする。	4 後期	405	9		○	○

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
(1) 卒業試験に合格していること	1 学年の学期区分	2 期
(2) 在学期間が4年以上8年以内であること		
(3) 卒業期までに授業料等を全額納入していること	1 学期の授業期間	15 週
卒業試験の受験資格は、教育課程の全教科について合格した者とする		